

田和山通信5

平成30年弥生子 2018年3月 編集:堀 晃

田和山サポートクラブの今後について理事会で話し合った結果を、会長名の覚書として松江市文化財課に提出しました。

田和山サポートクラブの将来像について(覚書)

会長 田中義昭

田和山サポートクラブでは臨時理事会を昨年末に四回、更に本年2月14、17日にわたって開催し、今後の田和山サポートクラブのあるべき姿について討議しました。それを踏まえて田和山サポートクラブの将来的な姿について報告します。

会員の世代交代について

承知のように田和山サポートクラブが結成されてはや15年、会員の高齢化が進み足腰が弱体しています。このような状況に鑑み、オルグ担当部を作り(◎貴谷真以会員、堀晃会員)、若手会員を募集し組織化することによって組織の活性化を図ろうとしています。

しかし、若手会員にとっては田和山遺跡は「松江にとって重要であるが、その保存は文化財として市が一義的に担うべきである」という意識が根底にあります。第一世代である当初会員の、「自分たちが遺跡を守るのだ」という意識とは大きく異なっており、これからは第二世代、すなわち「生活の余暇に文化的な活動として遺跡を楽しむ」という意識の人々が活動の中心となっていくはずで

田和山遺跡の保存、管理、広報活動

このような新しい状況では、田和山遺跡の管理等についても一度原点に立ち戻って考える必要があると思います。それは遺跡という文化財の管理責任は一義的に市にあるということです。これまでは遺跡保存活動の延長として、サポートクラブが大きな役割を果たしてきましたが、そのような活動を行う力を失っています。五年後には高齢化に伴い、当初会員は殆ど活動出来なくなるというのが実情です。

特に復元住居の再整備に伴い、燻蒸等の作業も実施しなければなりません。前回の火災事故の経験から、サポートクラブがその作業を引き受けることはできないと考えます。まず、市側がどのように責任を持った保存活動等をする準備があるのか、そのビジョンを示して戴きたいと考えます。サポートクラブはいったん活動を終え、そのビジョンに沿ってどのような活動ができるか議論したうえで、新「田和山サポートクラブ」を結成すべきであります。

ボランティア団体として再出発

市が直接管理するにせよ、あるいは指定管理団体を置くにせよ、新田和山サポートクラブはその外側の協力団体として、これまでの15年間のノウハウを活かせれば良いのではと考えます。ボランティア活動は、いわば「意気を感じて」行うものであり、市側が遺跡保存にかける覚悟とをまず示してもらする必要があります。

以上、田和山サポートクラブの現状と今後について思いを述べさせていただきました。宜しくご検討いただきますよう、お願いいたします。



田和山学講座

田和山サポートクラブでは、6月から11月にかけて毎月第一土曜日10-12時に田和山古代史講座を開講します。
会場:田和山館、定員30名、毎回資料代300円。

6月2日「日本列島の弥生文化」会長・田中義昭

7月7日「弥生時代と集落の形成」会長・田中義昭

8月4日「環濠の構造と機能」八雲立つ風土記の丘所長・松本岩雄

9月1日「田和山遺跡の調査から」松江市文化財課

10月8日「弥生時代の城」理事・今岡稔

11月3日「田和山の正装」理事・三宅博士

要事前申し込み:副会長 堀 晃 宛て
電話:080-6771-4124

メール:akirahori2000@ezweb.ne.jp

今後の予定

4月9日(月)16時~18時
定例連絡会 話題提供 文化財課赤沢氏「最近の松江市での文化財調査」

4月21日(土)10時~12時田和山サポートクラブ会員総会 田和山館にて

5月3日(木)9-15時

妻木晩田遺跡でイベント等研修

5月5日(土)10時-14時

端午の節句祭り

5月7日(月)16時~18時

定例連絡会 話題提供 島根大学教授福田哲之氏「中国古代の石硯、筆、木簡」

6月2日(土)10時~12時

「田和山学講座第一回」田中義昭会長

6月4日(月)16時~18時

定例連絡会 話題提供 「不味没200年に寄せて」堀晃

定例連絡会の話題提供はどなたでも参加可能です。堀晃宛て連絡ください。いお

平成30年度田和山サポートクラブ会員総会(お知らせ)
会員の皆様には是非ご出席くださるよう、ご案内申し上げます。

日時:平成30年4月21日午前10-12時、田和山館
議題:平成29年度事業報告、会計報告、平成30年度事業計画、予算案審議、その他